2017年9月6日のX-9.3 flare発生後、ロスコーン異方性によるものと思われる明瞭な強度減少が名古屋とホバートのミューオン計で観測された。また信大と極地研との共同研究により、南極昭和基地に宇宙線計（中性子モニターとミューオン計）を設置し、2018年2月頃から観測を開始する予定である。